



公益財団法人 日本サッカー協会

PROFILE

JAPANESE EDITION



公益財団法人 日本サッカー協会

ANTARCTICA

DREAM

夢があるから強くなる

世界中で最も愛されているスポーツ、サッカー。

世界中の人々がこのスポーツに熱狂し、勇気や感動を享受します。そして、サッカーを通じて世界を知り、言葉や人種、文化の違いを超えて喜びを分かち合います。

国際社会には依然として紛争や差別、貧困、地球温暖化などさまざまな問題が横たわっていますが、我々はサッカーの持つ影響力や国際力を十分自覚して問題の解決に取り組み、笑顔と希望に満ちた社会の実現に寄与したいと考えています。

1921年に創設して以来、受け継がれてきた日本サッカーの精神を継承しながら、サッカーの発展、国際社会の平和を目指し、挑戦し続けます。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

- エンジョイ スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
- プレーヤーズファースト 選手にとっての最善を考えること
- フェア オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
- チャレンジ 成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
- リスペクト 関わりのあるすべてを大切に思うこと

日本サッカーの新たな未来を切り開く

日本サッカーはこの20年余りで、世界にも稀に見る長足の進歩を遂げました。Jリーグの創設や2002FIFAワールドカップの開催などエポックメイキングな出来事もさることながら、サッカーがマイナースポーツだった時代から努力を重ねてきた選手育成や指導者養成もまた、日本サッカーの実力を開花させる原動力になりました。

育成や指導者養成でアジアをけん引してきた日本ですが、世界のサッカーが飛躍的な進化を遂げている昨今、これまでの取り組みを見直し、新たなステージに向けて新機軸を打ち出すべき時期にきています。今ある課題はもちろんのこと、予測可能な課題についても先延ばしすることなく取り組んでいきたいと思えます。

育成からトップレベルに至る日々の練習、試合、そして、指導者・審判員等の人材養成、施設整備など、サッカーを取り巻くあらゆる環境を“世界基準”にシフトさせていく必要があります。また、競技人口拡大の鍵を握る女性の存在も大切に、女子サッカーを振興させていくことも喫緊の課題に挙げています。

こういった活動を推進していくにあたり、日本サッカー協会（JFA）はもちろん、サッカーの普及、選手育成・強化、指導者・審判員の養成を担う47都道府県サッカー協会（47FA）の組織力、国際力の強化も不可欠です。しかも、47FA全てが法人化して地域のスポーツ振興の責任を担う存在になったいま、それぞれが将来をデザインし、戦略を立て、自ら財源を生む盤石の組織力をつけていくことが求められます。

JFAと47FA、9地域FA、Jリーグをはじめとする各種連盟が一体となって日本のサッカー、日本のスポーツを発展させていくこと、それが競技団体としての使命であることは言うまでもありません。

2020年には東京オリンピックが開催されますし、その1年後に、JFAは創立100周年を迎えます。少子高齢化が進み、地域のつながりが希薄になっている現代社会において、スポーツはますます重要な役割を果たしていくでしょう。子どもから高齢者、女性、障がい者、外国人など、多様な価値観を認めるダイバーシティの推進という意味でも、欠くことのできない文化の一端を担っていくものと考えています。

日本サッカーのレガシーを継承し、次の100年に向けて新たな未来を切り開くために、JFAは揺るぎない信念を持ち、豊かなスポーツ文化の創造、そして、人々の心身の健全な発達と社会の発展に全力を尽くしていくことをお約束します。

公益財団法人 日本サッカー協会

会長 田嶋幸三



2050

「JFA2005年宣言」の実現に向けて

JFAは、2005年1月に行った「JFA2005年宣言」において、「JFAの約束2015」と「JFAの約束2050」という2つの中長期目標を掲げました。

2015年、JFAは「JFA2005年宣言」からの10年間の取り組みを総括するとともに、「JFAの約束2050」の実現に向けて、「JFAの目標2030」を新たに設定しました。

2022年までの主なイベント

2022年

FIFAワールドカップカタール

2021年

JFA創立100周年

2020年

東京オリンピック・パラリンピック競技大会
FIFAフットサルワールドカップ

2019年

FIFA女子ワールドカップフランス

2018年

FIFAワールドカップロシア

「JFA2005年宣言」(2005年1月1日)

JFA2005年宣言

「JFAの約束2050」

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる。

2030

JFAの目標2030

普及

2030年までに、サッカーファミリーが800万人になる。

- 普及目標2018年 サッカーファミリー560万人
- 普及目標2022年 サッカーファミリー640万人

強化

日本代表チームは、FIFAワールドカップに出場し続け、2030年までにベスト4に入る。

- 強化目標2018年 FIFAランキングトップ20
 - 強化目標2022年 FIFAランキングトップ10
- ※上記「日本代表チーム」はSAMURAI BLUEを指す

上記のふたつの目標を達成するために、基盤整備に努め、2030年までに、世界でトップ3の組織になる。

JFA2005年宣言

「JFAの約束2015」

2015年には、世界でトップ10の組織となり、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが500万人になる。
2. 日本代表チームは世界でトップ10のチームとなる。

2005

日本代表は、日本サッカーを象徴する存在です。その活躍が、日本のサッカーをけん引し、全国各地でプレーする選手たちの指標となります。だからこそ、日本代表は、強く、魅力にあふれ、勝利を追い続ける集団でなければなりません。しかし、ただ勝つことだけで満足はしません。スポーツの尊厳を守るといふ、気高い志と使命感を持ち、フェアな戦いで勝利を目指します。そして、名実ともに、世界に誇れるチームになることを追い求めていきます。

SAMURAI BLUE (日本代表)

日本代表が初めて世界舞台に立ったのは、1923年の第6回極東選手権大会でした。後にこれが最初の国際Aマッチとして認定され、日本代表は以降、600試合以上の国際Aマッチを戦ってきました。

初めてFIFAワールドカップに出場したのは、1998年のフランス大会。以来、5大会連続出場を果たしています。韓国との共催となった2002年大会と2010年の南アフリカ大会では、グループステージを突破し、ベスト16の成績を収めました。

2006年のドイツ大会からSAMURAI BLUEの愛称で活動しています。



日本サッカーを象徴する気高い存在、
より強く、より魅力ある
代表チームへ

OFFICIAL PARTNER



OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES



U-23日本代表

オリンピックを目指す若き日本代表。1992年のバルセロナ大会から男子サッカー競技に「23歳以下」という年齢制限が設けられ、U-23日本代表が編成されました(※)。日本サッカーがオリンピックに初出場したのは1936年のベルリン大会。優勝候補のスウェーデンを破りベスト8に進出しました。1968年のメキシコシティ大会では、銅メダル獲得の快挙を成し遂げました。以後、長い低迷期を経て、再びオリンピックの舞台に立ったのは28年後のアトランタ大会でした。日本代表の躍進とともに若い世代も成長し続け、Jリーグ誕生以降は6大会連続でオリンピック出場を果たしています。

※1996年のアトランタ大会からは、各チーム3人までの24歳以上の選手の出場を認めるオーバーエイジ枠が採用されています。



U-20日本代表

FIFA U-20ワールドカップは1977年に第1回大会が開催され、以来、2年に一度開催されています。この舞台に立つには、前年に開催されるAFC U-19選手権で上位に進出し、出場権を獲得しなければなりません。これまでU-20日本代表は、FIFA U-20ワールドカップに8回出場し、1999年のナイジェリア大会では準優勝に輝きました。しかし、2009年のエジプト大会以降は世界の舞台から遠ざかっており、日本サッカーの将来のためにも、この年代の育成・強化は重要課題となっています。



U-17日本代表

FIFA U-17ワールドカップは1985年、16歳以下の代表チームによる世界大会としてスタートしました。1991年からは17歳以下に年齢が引き上げられ、2年に一度開催されています。この舞台に立つためには、前年に開催されるAFC U-16選手権で上位に進出し、出場権を獲得しなければなりません。

U-17日本代表はこれまでにFIFA U-17ワールドカップに7回出場しており、日本で開催された1993年大会、2011年のメキシコ大会では過去最高となるベスト8の成績を残しています。



フットサル日本代表

1989年に創設されたFIFAフットサルワールドカップに出場するために、同年、フットサル日本代表が編成されました。FIFAフットサルワールドカップは1992年大会以降、4年に一度開催されており、日本はこれまで4大会に出場しています。3大会連続出場となった2012年大会では、初のグループステージ突破を果たし、ベスト16の成績を収めました。また、1999年にスタートしたAFCフットサル選手権には、これまで全て出場。3度アジア王者に輝いています。



ビーチサッカー日本代表

2005年に創設されたFIFAビーチサッカーワールドカップ。日本は同大会に招待チームとして出場し、ベスト4進出の躍進を見せました。以降、全8大会に出場しています。2006年にスタートしたAFCビーチサッカー選手権では、全7大会に出場し、2度の優勝、5度の準優勝に輝いています。



なでしこジャパン(日本女子代表)

「なでしこジャパン」の愛称で知られる日本女子代表(※)。1991年にFIFA女子ワールドカップが創設されて以降、全7大会に出場し、2011年のドイツ大会では、決勝でアメリカをPK戦の末に下して世界女王に輝きました。この年、東日本大震災で深い悲しみの中にいた日本国民に大きな希望と勇気をもたらしたとして、団体としては初となる国民栄誉賞を受賞しました。

また、女子サッカーがオリンピック競技種目となった1996年以降は、4回のオリンピック出場を果たしており、2012年のロンドン大会では銀メダルを獲得しました。



※「なでしこジャパン」は日本の神話に登場する女神、櫛稲田姫の愛称である「大和撫子」からつけられたもの。なでしこの花のように美しく、強い日本人女性を表現しています。

U-20日本女子代表

U-20日本女子代表は、2002年に創設されたFIFA U-20女子ワールドカップにここまで4回の出場を果たしており、「ヤングなでしこ」の愛称で出場した12年の日本大会では、過去最高成績となる世界3位の座を獲得しました。アジア予選を兼ねたAFC U-19女子選手権では、連覇を含む4度の優勝を成し遂げています。



U-17日本女子代表

FIFA U-17女子ワールドカップは2008年に新設され、2年に一度開催されています。U-17日本女子代表は2014年大会まで全大会に出場。2010年大会で準優勝に輝くと、高倉麻子監督(現なでしこジャパン監督)が率いた2014年のコスタリカ大会では悲願の初優勝を果たし、なでしこジャパンに続いて世界の称号を手に入れました。



フットサル日本女子代表

2007年に結成したフットサル日本女子代表は、同年に行われたアジアインドアゲームズで初優勝を果たすと、2013年大会まで3連覇を達成しました。2010年にスタートした世界女子フットサルトーナメントには、全大会に出場しています。2015年にはAFC女子フットサル選手権がスタート。日本は準優勝に輝きました。



全国の試合環境を充実させ サッカーを日本の文化に



全国リーグ

日本サッカーは、プロリーグであるJリーグを頂点に、アマチュア最高峰の日本フットボールリーグ（JFL）以下、地域リーグ（9地域）、都道府県リーグ（47都道府県）とピラミッド型のリーグ構造を形成しています。それぞれのリーグ間で昇降格があることでリーグ全体が活性化し、チームや選手個々が高みを目指すサイクルが生まれます。また、女子やフットサルでも同様に全国リーグが展開されています。

■Jリーグ

Jリーグは日本初のプロサッカーリーグとして1993年に開幕しました（発足は1991年）。現在は、J1に18チーム、J2は22チーム、J3は16チームが加盟し、各リーグ戦で優勝を争っています。J1の上位3チームには、アジアのクラブナンバーワンを決定する「AFCチャンピオンズリーグ」の出場権が与えられ、そこで優勝すると各大陸のクラブ王者が集結する「FIFAクラブワールドカップ」に出場することができます。Jリーグは、トップリーグとして日本サッカーの強化に寄与するだけでなく、地域に密着したクラブ構想を掲げ、地域貢献にも力を入れています。



Jリーグ／日本フットボールリーグ（JFL）

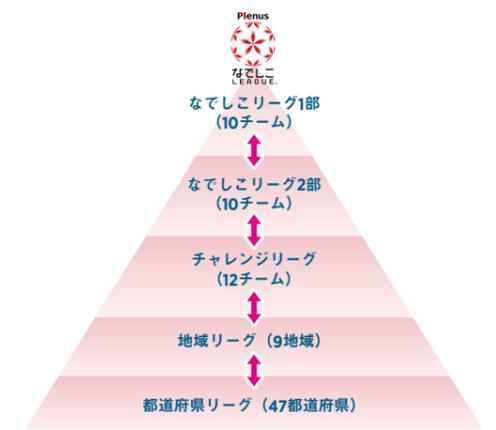


■日本フットボールリーグ（JFL）

Jリーグに次ぐアマチュア最高峰のリーグです。現在は、Jリーグを目指す地域のクラブチームや企業チームなど16チームが加盟しています。ファーストステージ、セカンドステージの2ステージ制によるリーグ戦を実施し、ステージ毎に順位を決定。その後、各ステージ1位チームによるチャンピオンシップを行い、年間王者を決定します。



なでしこリーグ



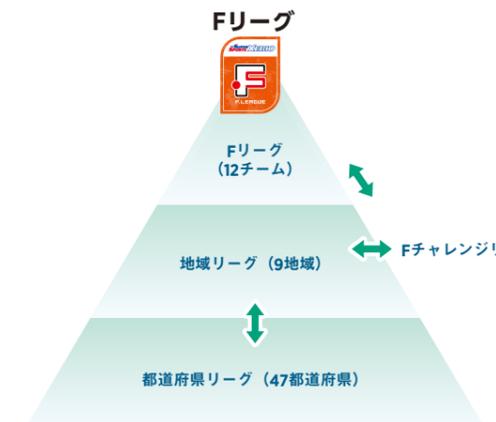
■なでしこリーグ

日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）は1989年にスタートしました。なでしこジャパン（日本女子代表）の活躍や女子サッカーの普及推進により、日本の女子チームは増加傾向にあります。現在は、10チームからなる「なでしこリーグ1部」の下に「なでしこリーグ2部」、その下に12チームによる「チャレンジリーグ」が位置付けられています。



■Fリーグ

フットサル初の全国リーグ「日本フットサルリーグ（Fリーグ）」は2007年に開幕しました。現在は12チームが参加。優勝チームにはAFCフットサルクラブ選手権の出場権が与えられます。2012-13シーズンには、Fリーグ参戦を目指すクラブを対象とした「Fリーグ準会員リーグ（現Fチャレンジリーグ）」を新設し、Fリーグの拡大を図っています。なお、Fリーグを運営する日本フットサル連盟には9地域、47都道府県のフットサル連盟が加盟し、全ての地域・都道府県でフットサルリーグが実地されています。





各種全国大会

各年代、各カテゴリーのチームが参加できる各種大会・リーグを整備しています。多くの人々がサッカーやフットサル、ビーチサッカーに親しむ環境を広げる一方で、有能な選手がチャレンジし、ステップアップできる体制を整えています。

カテゴリー

■ 第1種

原則として年齢制限のない選手により構成される(*)。Jリーグに所属するクラブや社会人チーム、クラブチーム、大学、専門学校チームなど。

■ 第2種 (U-18)

18歳未満の選手で構成されるチーム(*)。Jクラブのユースチームや高校の部活動、各地のクラブチームなど。

■ 第3種 (U-15)

15歳未満の選手で構成されるチーム(*)。Jクラブのジュニアユースチームや中学校部活動、各地のクラブチームなど。

■ 第4種 (U-12)

12歳未満の選手で構成されるチーム(*)。小学生の部活動、各地のクラブチームなど。

■ 女子

女子の選手で構成されるチーム。U-12未満の選手は、第4種チームに登録。

■ シニア

40歳以上の選手で構成されるチーム。

■ フットサル

フットサルもサッカー同様に第1種から第4種までである(*)。

■ ビーチサッカー

ビーチサッカー専門の登録制度はなく、サッカーもしくはフットサルの登録をした選手で構成されるチーム。

JFA主催全国大会など

第1種	天皇杯全日本サッカー選手権大会 全国社会人サッカー選手権大会 全国地域サッカーリーグ決勝大会 全国クラブチームサッカー選手権大会 国民体育大会(サッカー競技) 成年男子 日本スポーツマスターズ(サッカー競技会) 全日本大学サッカー選手権大会 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント デンソーカップチャレンジサッカー DENSO CUP SOCCER 大学日韓(韓日)定期戦 全国専門学校サッカー選手権大会 全国高等専門学校サッカー選手権大会 明治安田生命J1リーグ* 明治安田生命J2リーグ* 明治安田生命J3リーグ* JリーグYBCルヴァンカップ FUJI XEROX SUPER CUP 日本フットボールリーグ(JFL)
第2種 (U-18)	高円宮杯U-18サッカーリーグ(プレミアリーグ、プリンスリーグ) 高円宮杯U-18サッカーリーグチャンピオンシップ 全国高等学校サッカー選手権大会 全国高等学校総合体育大会(サッカー競技) 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 JユースカップJリーグユース選手権大会 国民体育大会(サッカー競技) 少年男子
第3種 (U-15)	高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 JFAプレミアカップ 全国中学校体育大会/全国中学校サッカー大会 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 メニコンカップ日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)
第4種 (U-12)	全日本少年サッカー大会 全国少年少女草サッカー大会 こくみん共済U-12サッカーリーグ キヤノン ガールズ・エイト JFA地域ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会
女子	皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 全国レディースサッカー大会 全国レディースサッカー大会<レディース・エイト(40歳以上)オープン大会> 国民体育大会(サッカー競技) 女子 全日本大学女子サッカー選手権大会 全日本高等学校女子サッカー選手権大会 全国高等学校総合体育大会(サッカー競技) JOCジュニアオリンピックカップ 全日本女子ユースサッカー選手権大会 全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 プレナスなでしこリーグ1部* プレナスなでしこリーグ2部* プレナスチャレンジリーグ*
シニア	全国シニア(40歳以上)サッカー大会 全国シニア(50歳以上)サッカー大会 全国シニア(60歳以上)サッカー大会 シニア(70歳以上)サッカーフェスティバル
フットサル	全日本フットサル選手権大会 全日本女子フットサル選手権大会 全日本大学フットサル大会 全日本ユース(U-18)フットサル大会 全日本ユース(U-15)フットサル大会 全日本女子ユース(U-15)フットサル大会 パーモントカップ全日本少年フットサル大会 JFAエンジョイ5~JFAフットサルエンジョイ大会~ Super Sports XEBIO Fリーグ* Fリーグオーシャンカップ Super Sports XEBIO Fチャレンジリーグ
ビーチ	全国ビーチサッカー大会

*第2種、第3種、第4種の場合、それぞれ高校在学中、中学校在学中、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。

*その他、プレーオフ、入替戦、オールスター戦などを開催



育成日本復活へ

～世界基準のアプローチを徹底～

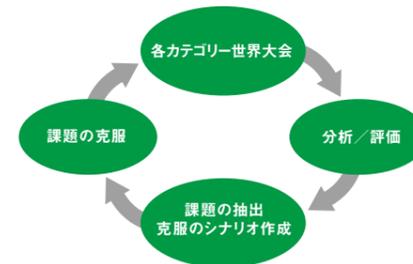
世界を見据えた強化策

世界のトップ10入りを標榜するJFAは、「世界を基準とした強化策の推進」のもとに選手育成や指導者養成に取り組んでいます。

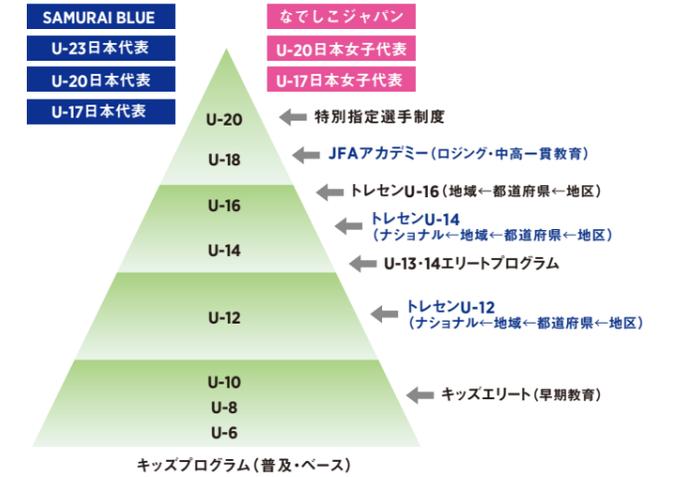
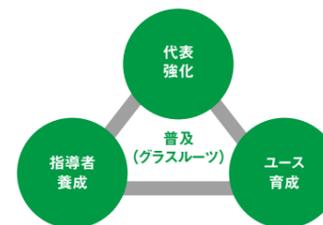
各年代の世界大会を分析・検証して課題を抽出し、代表チームの強化やユース育成、指導者養成などの現場で克服を試み、再び世界大会に挑戦するというサイクルを重視しています。

また、世界のトレンドや強化・育成に関する情報、方向性を日本サッカー界全体で共有。系統的な指導で選手のレベルアップを図っています。

■ 世界をスタンダードとした強化策の推進



■ 三位一体+普及の強化策



■ JFA Youth & Development Programme

「JFA2005年宣言」の理念とビジョンに基づき、継続的な日本サッカーの発展のためにさらなる普及や次世代選手の育成を促進することを目的としたプロジェクトです。

パートナー企業4社とJFAは共に手を取り合い、ユース年代のみならず、大学、シニア、女子、フットサル、ビーチサッカー、技術関連事業まで、日本サッカーの基盤を支える重要な各領域において、さまざまな施策を講じています。

パートナー企業

JFA Youth & Development Official Partner



JFA Youth & Development Official Supporter



JFA Youth & Development Official Provider



■ JFA/Jリーグ協働育成プログラム (JJP)

Jリーグ、Jクラブと協働して、ワールドクラスの選手を輩出することを目的に実施している事業です。

Jクラブのアカデミーチームの海外遠征や育成年代の国際大会の充実、また、その年代を教える指導の研修などを支援するプログラムを行っています。

■ ナショナルトレセン

将来を囑望される選手を年代ごとに集めて、一定期間、充実した環境の下で指導するシステムで、指導は、「個」のレベルアップを主眼に置いて行われています。

地区→都道府県→地域→全国に至るシステムを形成し、有能な選手はユース年代の代表チームへと送り出されます。ナショナルトレセンは、選手の発掘・強化だけでなく、全国にJFAのビジョンや情報を伝える双方向の機能も持っています。

■ JFAフットボールフューチャープログラム／トレセン研修会U-12

各都道府県で活動しているトレセンU-12の参加選手・指導者を一堂に集め、年に1回、研修会を開催しています。研修会では、試合・トレーニングのみならず、オフ・ザ・ピッチでのプログラムも実施しています。

■ エリートプログラム

男女のU-13/14年代を対象としており、育成年代代表につながる日本選抜としての役割を担っています。

男子は、ナショナルトレセンU-13/14の活動内容と連動。女子は地域・都道府県トレセンから選手を選出し、キャンプや海外遠征を実施しています。

■ ナショナルGKキャンプ

将来の日本代表を担うGKの育成・強化を目的に年1回、全国からU-15/18年代のGK選手を招集してキャンプを開催しています。

■ 女子GKキャンプ

将来のなでしこジャパンのGKを発掘・育成するプロジェクトで、強化・育成・普及の観点からU-15年代前後の選手を対象にキャンプを開催しています。ユース年代のトップレベルのGK選手の強化、トレセンや各種大会などから技術・身体能力の高い選手を見いだして育成。サッカー経験の有無を問わず、将来の日本女子サッカーを支える人材を一般公募し、トレーニングを行っています。

■ JFA・Jリーグ特別指定選手制度

■ 女子：特別指定選手制度

■ フリーグ：特別指定選手制度

サッカー選手として最も成長する若い年代の選手に、高いレベルでプレーする環境を提供する制度です。

男子は、全日本大学サッカー連盟や全国高等学校体育連盟サッカー部、Jクラブ以外の第2種日本クラブユース連盟加盟チームに所属する選手が対象で、JFA技術委員会の認定を受けて所属チームに登録したままJリーグなどの試合に出場できます。

女子は、日本女子サッカーリーグに加盟していないチームに所属する選手が対象で、JFA女子委員会の認定を受けて、所属チームに登録したまま日本女子サッカーリーグ加盟チームの活動に参加できます。

フットサルも同じく、Fクラブ以外に所属するJFA登録のフットサル選手がJFAの認定を受けて、フリーグなどの試合に出場できます。

■ なでしこジャパン海外強化指定選手

なでしこジャパンの核となる選手を海外のトップクラブで活動できるよう支援する制度で、選手は、フィジカルに長けた選手が集まる海外のリーグで研さんを積むことで、個人のレベルアップを図っています。

■ JFAアカデミー

ロジング形式(寄宿制)で、長期にわたって選手を教育・指導するエリート育成機関です。サッカーのみならず、国際社会にも貢献できる真のリーダーの育成を目指しています。

福島校、熊本宇城校、堺校、今治校の4校で活動を行い、アカデミーのコンセプトを全国に広めています。

	福島校	熊本宇城校	堺校	今治校
所在地	静岡県御殿場市、裾野市*	熊本県宇城市	大阪府堺市	愛媛県今治市
対象	男子・女子	男子	女子	女子
活動期間	中学1年生～高校3年生	中学1年生～3年生	中学1年生～3年生	中学1年生～3年生
活動概要	寮生活	平日のみ寮生活	平日のみ寮生活	平日のみ寮生活
チーム登録	アカデミーでチーム登録し、公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場	各々地元チームに所属し、その一員として公式戦に出場

*東日本大震災の影響により、福島県双葉郡から一時移転



ゲーム環境の整備

JFAは「プレーヤーズファースト」の精神のもと、誰もが実力に応じて充実したサッカーの経験を積む環境の創出を目指し、各年代のゲーム環境の整備を進めています。選手たちが真剣勝負の中でトライ&エラーを繰り返しながら、技術・戦術面のレベル、さらには失敗を恐れずにチャレンジする強い精神力を身に付けられるよう、長期にわたるリーグ戦を導入しています。また、U-12年代では少人数制サッカーを推奨し、多くの選手が試合に出場し、ボールと関わることのできる機会を増やしています。



質の高い指導者の存在が、 日本サッカーを高みに導く

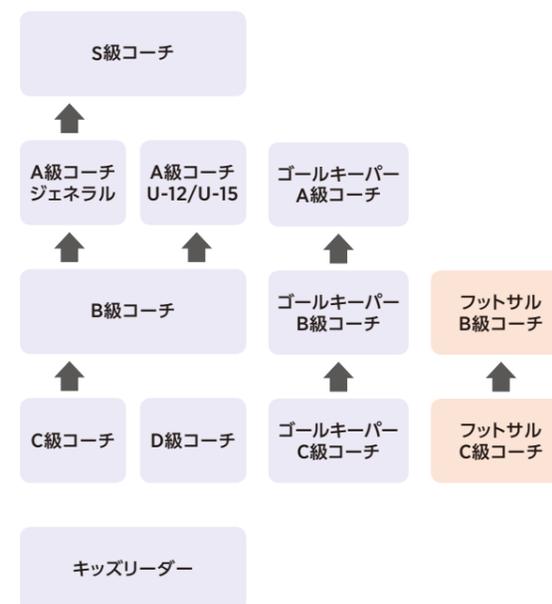


指導者養成制度

JFAは、指導者（指導者を目指す人々）のニーズに合わせた各種講習会を実施しています。10歳以下の子どもにスポーツやサッカーの楽しさを伝える「キッズリーダー」からプロチームを指導できる「S級コーチ」まで、フットサル指導者を含むニーズに合わせた講習会を開講。修了者にはライセンスを付与し、JFAの活動やトレーニング方法などの最新情報や指導機会を提供しています。

JFA公認指導者は資格取得後もリフレッシュ研修会によって自己研さんを積んでいます。

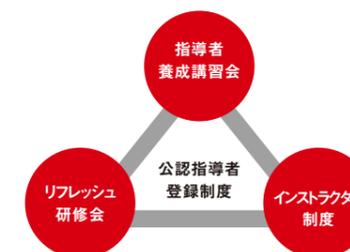
■ 指導者養成講習会 - JFA指導者ライセンス体系 -



■ インストラクター制度

JFAは、より優秀な指導者を輩出するため、その指導を担うインストラクターの養成に取り組んでいます。

インストラクターは、JFAが開催する指導者養成講習会やリフレッシュ研修会で講師を務め、JFAの強化育成方針や具体的な施策などを全国各地の指導現場に広めていく役割を担っています。



■ フットボールカンファレンス

2年に一度、全国の指導者を集めて開催されています。海外から講師を招へいしてサッカー先進国の知見を得たり、国内外の活動報告やディスカッションなどを実施。日本サッカーが進むべき方向性を草の根からトップまで全国の指導者と共有しています。



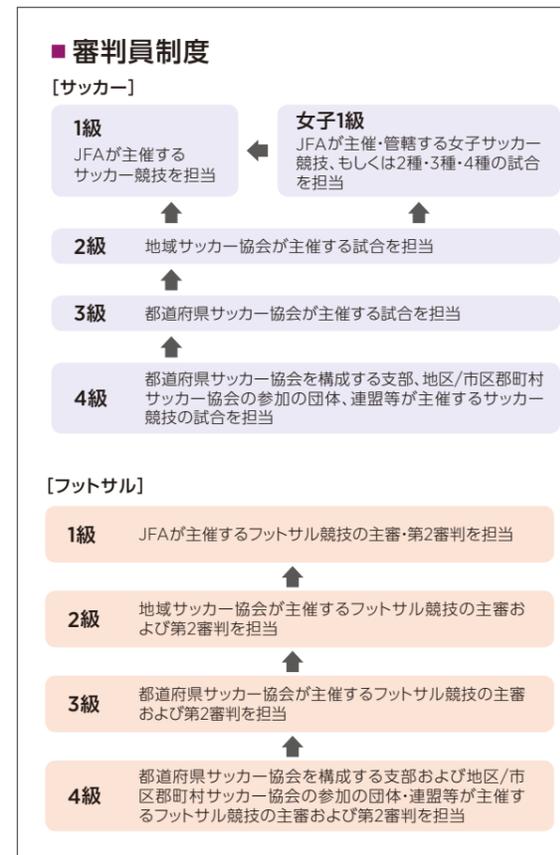
良い審判なくして 良いサッカーはなし

～日本が世界に誇る審判員～



審判員のレベルアップ

サッカーおよびフットサルの審判員資格は、対象となる試合のレベルに応じて1級から4級まであります。審判員は、競技規則の理解に努めるとともに、研修会や更新講習会で研さんを積み、レフェリングの向上を図っています。JFAには現在、25万人のサッカー審判員と2万5千人のフットサル審判員が登録しています。



■ 審判インストラクター制度

審判員を指導するインストラクターの資格は、サッカーがS級・1級・2級・3級、フットサルが1級・2級・3級です。審判インストラクターは、審判員の指導や評価・認定審査や審判インストラクターの指導を行います。

■ プロフェッショナルレフェリー

JFAは、トップレベルの審判員が審判活動に専念できる環境を創出するため、2002年に「プロフェッショナルレフェリー制度」を導入しました。現在は10名以上のプロフェッショナルレフェリーがいます。

■ JFAレフェリーアカデミー構想

JFAは、これまで地域・都道府県サッカー協会（FA）が主体となって取り組んできた審判員／審判インストラクターの育成・強化や審判員指導体制をさらに組織的にしてその環境を整えていくため、「JFAレフェリーアカデミー」の構築を目指しています。

その足がかりとして、「JFAレフェリーキャラバン」を実施して、地域・都道府県FAと現状の課題や今後の方向性等について情報を共有し、審判員の普及・育成・指導体制のさらなる強化に取り組んでいます。

■ 審判トレーニングセンター

2級審判インストラクター、2級審判員のレベル向上を目的に、「地域審判トレーニングセンター」を実施しています。また、3級審判インストラクター、3級審判員を対象に「都道府県審判トレーニングセンター」を、女子審判員の普及・育成を目的に「女子審判トレーニングセンター」を実施しています。

■ ユース審判員育成

2010年から本格的にユース審判員の育成に取り組んでいます。ユース審判員は、JFAや地域・都道府県サッカー協会が主催する公式戦で活躍しています。また、ユース審判員の育成を目的に年数回の集中研修を開催し、審判員の強化育成に努めています。

■ 審判交流プログラム

各国サッカー協会から審判員やインストラクターを招へいしたり、日本から派遣するなど、審判員の国際交流とともに国際経験の創出を図っています。2016年はオーストラリアおよびポーランドとプログラムを実施しました。その他、イングランド、中国、タイなどとの交流も行っています。





世界に誇れる
日本サッカーの財産を力に
アジアと共に強くなる

JFAの国際活動

各国とのパートナーシップ

双方のサッカーの発展を目的に各国協会/連盟とパートナーシップ協定を締結しています。

指導者養成や育成システムのノウハウ、グラスルーツや女子サッカー、マーケティング、IT(情報技術)、サッカー関連施設などに関する情報の共有、審判員の交流、各国年代の代表チームの合宿受け入れなど、多岐にわたる分野で各国との相互協力を図っています。

■ パートナーシップ協定締結

<ヨーロッパ>

イングランドサッカー協会、スペインサッカー連盟、ドイツサッカー連盟、フランスサッカー連盟

<アジア>

アラブ首長国連邦サッカー協会、イランサッカー連盟、インドサッカー連盟、シンガポールサッカー協会、タジキスタンサッカー連盟、ベトナムサッカー連盟、モンゴルサッカー連盟、ヨルダンサッカー協会

(五十音順)

アジア協力事業

日本サッカーは長い歴史の中で、アジア、世界の国々に多くを学びながら成長してきました。アジアサッカーの発展があるからこそ、日本サッカーの進歩があります。

JFAは47の国と地域が加盟するアジアサッカー連盟(AFC)のモデル協会として、アジアサッカーの発展に協力していきます。

■ 指導者/審判インストラクターの海外派遣

日本の指導者、審判インストラクターを海外に派遣し、各国のサッカーの発展を支援しています。豊富な知識と経験、向上心と責任感に裏打ちされた日本の指導者養成は、アジアで高い評価を得ています。

■ 各種講習会の開催

- ・ インターナショナルコーチングコース
- ・ インターナショナルレフェリーインストラクターコース
- ・ インターナショナルアドミニストレーションコース

JFAは、AFC加盟協会を対象に、指導者講習会および審判インストラクター研修会、各国協会職員アドミニストレーション研修会を開講して、日本サッカーが構築してきたノウハウや最先端の情報を提供しています。

■ 海外チーム、視察団の受け入れ

日本の素晴らしい環境でトレーニングキャンプをしたいという海外の代表チーム、日本の育成環境や各種大会等を参考に自国のサッカーを進化させたいという視察団などを受け入れています。

■ JFAユース育成資金援助

アジア全体のユース育成の底上げを目的に、JFAは2003年度から「JFAユース育成資金援助」をスタート。アジア各国のユース育成事業や競技会の開催、指導者養成などを資金面からサポートしています。

■ 国際大会の招致

サッカーを通じた国際貢献を目的に東アジアサッカー連盟(EAFF)、AFC、FIFAなどの様々な大会を日本に招致すべく、中・長期的な視野で取り組んでいます。



■ 子どもたちに夢を持つ素晴らしさを伝える
「JFAこころのプロジェクト」
「スポーツこころのプロジェクト」

JFAは、子どもたちの健全な心身の発達に寄与するための活動を展開しています。

「JFAこころのプロジェクト」は、挫折や失敗にくじけることなく夢に挑戦したアスリートが「夢先生」として小学校の教壇に立ち、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを伝えます(※)。

2011年の東日本大震災後、JFAは、日本体育協会や日本オリンピック委員会、日本トップリーグ連携機構とともに「スポーツこころのプロジェクト」を創設。被災地の小中学校で「スポーツ笑顔の教室」を実施しています。

- JFAこころのプロジェクト
<http://www.yumesen.jp/>
- スポーツこころのプロジェクト
<http://www.sports-kokoro.jp/>

※一部、中学生を対象に実施



■ JFAスポーツマネジャーズカレッジ

JFAは、スポーツ団体やスポーツクラブ、フットボールセンターの運営などに携わる人材の育成を目的に、「JFAスポーツマネジャーズカレッジ(SMC)」を開講しています。

JFAが中心となって行う「SMC本講座(7セッション/約170時間)」と都道府県が主体で実施する「SMCサテライト講座(6セッション/18時間)」があり、JFAや都道府県サッカー協会をはじめ、スポーツクラブやクラブチームなどの組織運営の強化に生かしています。



■ 芝生の広場を日本中に

JFAは、天然芝のグラウンドを整備するため、ポット苗方式の芝生化を推進しています。都道府県サッカー協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園などを対象に芝生の苗を無償で提供しており、2015年度までにグラウンド約171面分(1,225,632㎡相当)に芝生のポット苗を全国338カ所に提供しました。

■ 復興支援活動

JFAは、「がんばろうニッポン!~サッカーファミリーのチカラをひとつに!~」の合言葉のもと、2011年3月に発生した東日本大震災、ならびに2016年4月に起きた熊本地震の復興支援活動に取り組んでいます。

チャリティーマッチやサッカー教室の開催などのほか、被災地におけるサッカー活動を支援。FIFAやAFCをはじめ世界中のサッカーファミリーの協力で、用具の提供やサッカー施設の整備も実施しています。



■ 「国連グローバル・コンパクト」に参加

2009年、JFAはスポーツ統括団体として世界で初めて「国連グローバル・コンパクト」に登録されました。サッカーが持つ力で人権、労働基準、環境に配慮した社会の実現を目指し、腐敗防止に努めます。



■ 「ONE GOAL」キャンペーンに参加

アジアの子どもたちがより良い食生活で、成長に必要な栄養を適切に摂取し、健やかに成長するために、JFAは多くの人々に飢餓や貧困にあえぐ子どもたちの現状を知ってもらい、食生活や栄養について知識を深めてもらおうと、「ONE GOAL」キャンペーンに参画しています。

■ サッカーファミリーの力で美しい地球を

JFAは、日本政府が進める「Fun to Share」と運動し、低炭素社会の実現を目指しています。1998年のFIFAワールドカップでは、試合後、日本のサポーターがゴミ拾いをする姿が驚きと称賛を持って海外のメディアに取り上げられましたが、サッカーファミリーが力を合わせて省エネや環境美化に取り組むことで、大きな効果を発揮できると考えています。



すべての人々に
スポーツの楽しさを
~サッカーをもっと、みんなのものへ~



Football for All

グラスルーツには、草の根、民衆のという意味があります。グラスルーツはトップレベルのサッカーを支え、その国のスポーツ文化の醸成へとつながるものです。JFAは「Football for All サッカーを、もっとみんなのものへ。」を合言葉に、グラスルーツの充実を目指しています。

JFAグラスルーツ宣言

JFAは2014年5月15日、「JFAグラスルーツ宣言」を行いました。これは「JFA2005年宣言」の理念とビジョンに基づき、「誰もがいつでもどこでも」サッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めることを宣言するものです。JFAは、サッカーに関わるすべての人々を支え、サッカー、そしてスポーツが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目指します。

JFAフェスティバル

多くの人々にボールを蹴る楽しさ、体を動かす喜びを味わってもらうため、全国各地でさまざまなフェスティバルを開催しています。

■ JFAキッズサッカーフェスティバル

10歳以下のキッズ年代を対象に各都道府県サッカー協会において、誰もが参加できるサッカーフェスティバルを開催しています。

■ JFAレディース／ガールズサッカーフェスティバル

18歳以下の年代を「ガールズ」、18歳以上の女性を「レディース」と名付け、初心者も含めて、全ての女性に楽しくサッカーに親しんでもらうことを目的に実施しています。

■ JFAファミリーフットサルフェスティバル

フットサルを通じて、ボールを蹴る楽しさや家族で遊ぶ喜びを実感してもらうことを目的に実施しています。

■ JFAフットボールデー

2008年からJFA創立記念日である9月10日を「JFAフットボールデー」と制定。各都道府県サッカー協会のもと、各地でさまざまなイベントを開催しています。

※その他、株式会社ユニクロやキリングroupと協力し、「JFAユニクロサッカーキッズ」「JFA・キリン レディース／ガールズサッカーフェスティバル」「JFA・キリン ファミリーフットサルフェスティバル」などを全国各地で開催しています。

JFAなでしこひろば

女性が「気軽に」「楽しく」「継続して」サッカーやフットサルを楽しめる環境づくりを目的とした女子サッカーの普及施策です。認定団体の協力のもと、全国各地でサッカークリニックなどを展開しています。



JFAエンジョイ5

～JFAフットサルエンジョイ大会～

民間フットサル施設などで日常的にフットサルを楽しんでいる「エンジョイ志向」のプレーヤーを対象にした大会です。年代やレベルなどに応じたカテゴリーを設け、老若男女問わず誰もが参加できる大会として開催しています。



JFAチャレンジゲーム

個人練習でさまざまな動きやテクニックを身に付けられるように開発したサポートツールです。8歳までを対象とした「めざせクラッキ!」、9歳以上を対象とした「めざせファンタジスタ」の2部構成になっており、段階を経てテクニックを習得できるようになっています。めざせファンタジスタでは、全国各地で検定会を開催し、各ステージをクリアした合格者を認定しています。

JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度

「JFAグラスルーツ宣言」に賛同する団体と仲間になり、共に行動することで、グラスルーツサッカーの環境改善を押し進めるための制度です。賛同パートナーは「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」の3つのテーマに分かれています。

■ 『引退なし』賛同パートナー

学校卒業、就職、転勤など人生の節目で「引退」して終わるのではなく、サッカーをやりたい人は、どこにいても気軽にサッカーが継続できるように、子どもからお年寄りまで、生涯にわたってサッカーやスポーツを楽しめる場づくりに取り組む団体を認定します。



■ 『補欠ゼロ』賛同パートナー

『補欠ゼロ』には、「上手い・下手関係なく、その人のレベルに応じて必ず試合を楽しめるようにしたい」という思いが込められています。大会の規則によっては全員が試合に出られないこともあります。しかし、その試合に出られなくても他の試合でしっかりと出られるようにするなど、試合に出場できないままサッカーを終えることなく、みんなが試合を楽しむことができるように取り組む団体を認定します。



■ 『障がい者サッカー』賛同パートナー

サッカーはみんなのもの。障がいを持つ人も安心してサッカーをプレーするようになれば、豊かな社会の実現の一助となるでしょう。そのためには、多くの人たちが障がいのことを理解し、どうすればみんなが楽しめようになれるかを考え行動することが必要です。「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方のもと、多様性を受け入れ、障がいの有る無しにかかわらず、サッカーやスポーツを通じて、個性が発揮できる場づくりに取り組む団体を認定します。



リスペクトの推進

～大切に思うこと

JFAとJリーグは2008年4月、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、「リスペクトプロジェクト」をスタートさせました。リスペクトの本質は、常に全力を尽くしてプレーすること。それは、フェアプレーの原点でもあります。JFAは、リスペクトを「大切に思うこと」として、サッカーに関わるすべての人、ものを大切に思う精神を広く浸透させていくことを目指します。また、リスペクトプロジェクトの一環として、サッカーやスポーツの現場で顕在化する差別や暴力に断固反対し、差別や暴力のない世界をつくるべく、相談窓口を設置するなどのさまざまな取り組みを行っています。



■ リスペクトF.C. JAPAN

2011年9月3日にJFA公式Webサイト上に開設された、ヴァーチャルなクラブです。クラブ員とリスペクトに関する情報を共有しながらリスペクトの推進に取り組んでいます。



リスペクトF.C. JAPANの約束

リスペクトF.C. JAPANの一員として、

- ENJOY** サッカーを楽しむことを誓います
- VALUE** リスペクトのこころを育て、大切にすることを誓います
- ACTION** より多くの仲間を増やしていくことを誓います

クリーンなスポーツ社会の実現へ

違法賭博による八百長問題が、世界的な問題となっています。JFAは、2011年シーズンから日本のさまざまな試合にFIFAのEarly Warning System (EWS)を導入。また、Jリーグと共に国際刑事警察機構 (INTERPOL) やFIFA、AFC等と連携したセミナーやワークショップなども開催しています。

JFAは、「スポーツの尊厳と高潔性」を守るという信念のもと、八百長や人種差別、ドーピングなどさまざまな社会悪に毅然と立ち向かい、より良い社会の実現に取り組んでいきます。

組織概要

正式名称 公益財団法人 日本サッカー協会
 名誉総裁 高円宮妃殿下
 会長 田嶋 幸三
 所在地 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り
 (本郷3丁目10番15号)JFAハウス
 電話 03-3830-2004
 FAX 03-3830-2005
 協会創立 1921年
 FIFA加盟 1929年
 AFC加盟 1954年
 公式Webサイト <http://www.jfa.jp/>

JFAの目的および事業

JFAは、日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の発達と社会の発展に貢献することを目的に活動しています。この目的を達成するため、以下の事業を行います。

- 1 日本を代表する各年代、各カテゴリーのサッカーチームを組織し、各種競技会への参加及び代表チームが参加する競技会を開催する
- 2 サッカーの全日本選手権大会その他の競技会の開催
- 3 サッカー選手の育成、サッカー競技の普及及びサッカーの指導者並びに審判員の育成
- 4 選手、チーム、指導者及び審判員等の登録
- 5 知的所有権の管理及び商標提供
- 6 社会貢献及び国際貢献の実施
- 7 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業



左から岩上和道事務総長、馬淵明子副会長、岡田武史副会長、田嶋幸三会長、村井満副会長、岡島正明専務理事

JFAミッション2015-2022

「JFA2005年宣言」の具現に向けて、2015年から2022年の8年間に取り組むべき重点的な事業・施策として「JFAミッション2015-2022」を策定し、各事業の推進に取り組んでいます。

- Mission 1 普及施策の推進 (JFAグラスルーツ宣言)
- Mission 2 施設整備の推進 (JFAグリーンプロジェクト)
- Mission 3 日本代表の強化
- Mission 4 育成環境の充実
- Mission 5 国際競技会の充実
- Mission 6 Jリーグとの協働
- Mission 7 国際力の強化と社会貢献の充実
- Mission 8 組織基盤の強化 (JFAリフォーム)

JFAシンボルマーク

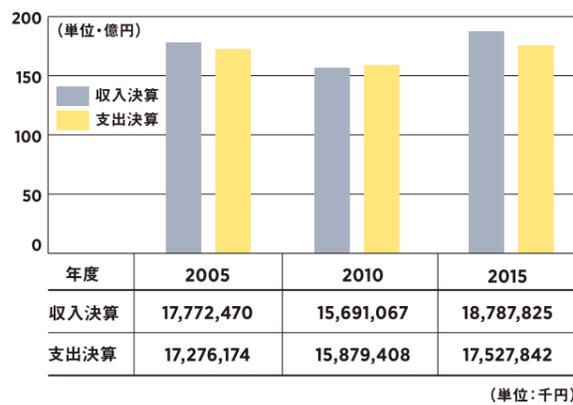
シンボルマーク

日本代表エンブレム

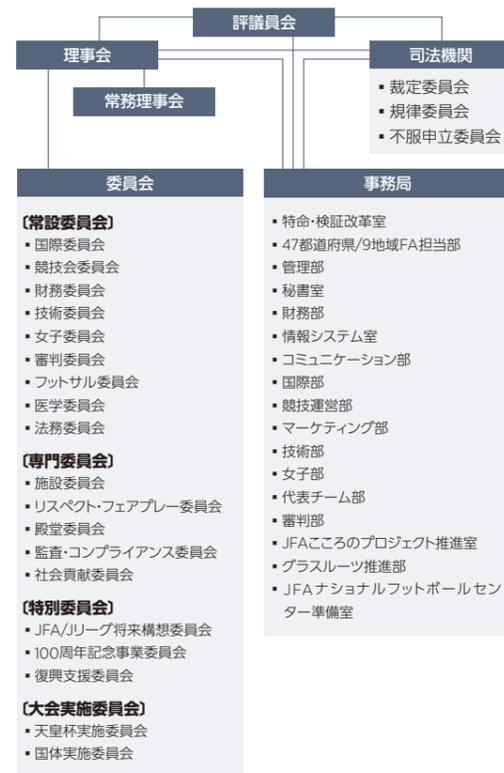
カラッパ(兄)とカララ(弟)

ボールを押さえている鳥は、中国の古典にある三足鳥と呼ばれるもので、日の神=太陽をシンボル化したものです。日本では、神武天皇東征の際に八咫鳥が道案内をしたということもあり、鳥には親しみがありました。旗の黄色は公正を、青は青春を表し、はつらつとした青春の意気に包まれた日本サッカー協会の公正の気宇を表現しています。このマークをもとに、日本代表エンブレムと日本代表マスコットが作られています。

財政規模



JFA組織図



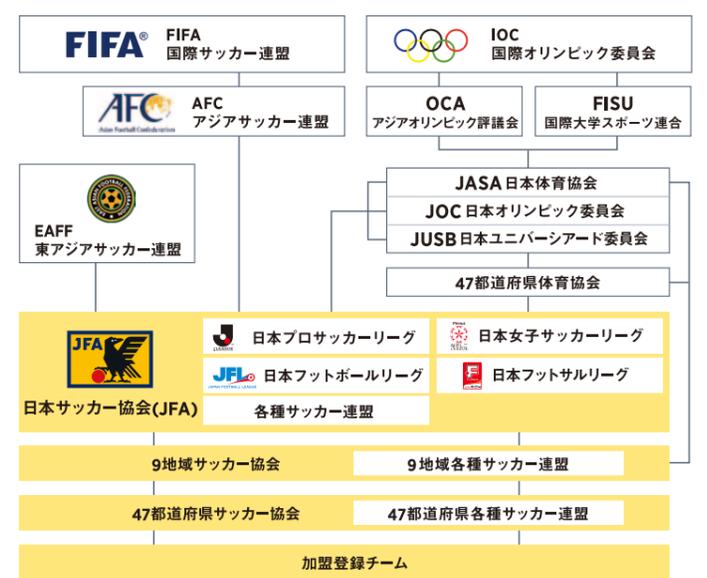
理事会

JFAの各種業務等を協議・決定する機関です。原則として毎月開催し、会長が議長を務めています。

役職	名前	備考
会長	田嶋 幸三	代表理事
副会長	岡田 武史	
	村井 満	Jリーグ
	馬淵 明子	
専務理事	岡島 正明	
常務理事	松崎 康弘	
常務理事	植田 昌利	関東サッカー協会
常務理事	原 博実	Jリーグ
理事	松本 敬嗣	北海道サッカー協会
理事	大南 博義	東北サッカー協会
理事	荒川 剛	北信越サッカー協会
理事	竹山 勝自	東海サッカー協会
理事	藤縄 信夫	関西サッカー協会
理事	古田 篤良	中国サッカー協会
理事	兵頭 龍哉	四国サッカー協会
理事	竹田 孝	九州サッカー協会
理事	眞壁 潔	Jリーグ(Jクラブ)
理事	上田 栄治	
理事	林 義規	
理事	西野 朗	
理事	小川 佳実	
理事	池田 浩	
理事	今井 純子	
理事	須原 清貴	
理事	北澤 豪	
理事	三好 豊	
理事	鈴木 寛	学識経験者
理事	山口 香	学識経験者
監事	原 秋彦	
監事	岩城 健	
監事	福田 雅	

※2016年7月1日現在

関連組織図



評議員会

評議員会は、47都道府県サッカー協会、JリーグならびにJクラブ(J1)、日本フットボールリーグ、日本フットサル連盟、なでしこリーグ、JFA所属団体、Jリーグ選手会から選出された75人で構成されています。

所属	名前	所属	名前
公益財団法人北海道サッカー協会	金澤 耿	一般社団法人高知県サッカー協会	秋森 学
一般社団法人青森県サッカー協会	久保 雅喜	公益社団法人福岡県サッカー協会	宮崎 卓史
公益社団法人岩手県サッカー協会	吉田 隆一	一般社団法人佐賀県サッカー協会	浪瀬 隆一
一般社団法人宮城県サッカー協会	大久保 芳雄	一般社団法人長崎県サッカー協会	造酒 星市
一般社団法人秋田県サッカー協会	外山 純	一般社団法人熊本県サッカー協会	北岡 長生
NPO法人山形県サッカー協会	山本 益生	一般社団法人大分県サッカー協会	大場 俊二
一般財団法人福島県サッカー協会	小池 征	一般社団法人宮崎県サッカー協会	櫻田 公一
公益財団法人茨城県サッカー協会	木内 敏之	一般社団法人鹿児島県サッカー協会	松山 孝
公益社団法人栃木県サッカー協会	糸井 朗	一般社団法人沖縄県サッカー協会	上地 義徳
一般社団法人群馬県サッカー協会	鈴木 芳文	株式会社ベガルタ仙台	西川 善久
公益財団法人埼玉県サッカー協会	岡田 泉	株式会社モンテディオ山形	森谷 俊雄
公益社団法人大分県サッカー協会	大野 辰巳	株式会社鹿島アントラーズ・エフシー	井畑 滋
公益財団法人東京都サッカー協会	上野 二一	浦和レッドダイヤモンズ株式会社	瀧田 敬三
一般社団法人神奈川県サッカー協会	本木 幹雄	株式会社日立柏レイソル	瀧川 龍一郎
一般社団法人山梨県サッカー協会	渡邊 玉彦	東京フットボールクラブ株式会社	大金 直樹
一般社団法人長野県サッカー協会	中和 昌成	株式会社川崎フロンターレ	藤科 義弘
一般社団法人新潟県サッカー協会	渡辺 滋	横浜マリノス株式会社	中村 勝則
公益社団法人富山県サッカー協会	田中 厚	株式会社湘南ベルマーレ	水谷 尚人
一般社団法人石川県サッカー協会	西尾 真友	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ	佐久間 悟
一般社団法人福井県サッカー協会	西村 昭治	株式会社松本山雅	神田 文之
一般財団法人静岡県サッカー協会	高田 稔	株式会社アルビレックス新潟	田村 真
公益財団法人愛知県サッカー協会	越山 彰	株式会社エス・パルス	左伴 繁雄
一般社団法人三重県サッカー協会	高井 幸郎	株式会社名古屋グランパスエイト	久米 正一
一般財団法人岐阜県サッカー協会	森 進一	株式会社ガンバ大阪	野呂 輝久
公益財団法人滋賀県サッカー協会	松田 保	株式会社フリスツフットボールクラブ	池田 敦司
一般社団法人京都府サッカー協会	村山 義彰	株式会社サンフレッチェ広島	織田 秀和
一般社団法人大阪府サッカー協会	赤須 陽太郎	株式会社サガントリス	竹原 稔
一般社団法人兵庫県サッカー協会	中桐 俊男	公益社団法人日本フットサル連盟	池田 裕
一般社団法人奈良県サッカー協会	山口 浩	一般社団法人日本フットボールリーグ	加藤 桂三
一般社団法人和歌山県サッカー協会	中村 源和	一般社団法人日本女子サッカーリーグ	小野 俊介
一般財団法人鳥取県サッカー協会	池田 洋二	一般財団法人日本フットサル連盟	原田 理人
一般社団法人徳島県サッカー協会	金築 弘	一般財団法人全日本大学サッカー連盟	西田 裕之
一般財団法人岡山県サッカー協会	木村 孝行	一般財団法人全国社会人サッカー連盟	牛久保 勇
公益財団法人広島県サッカー協会	白井 孝司	公益財団法人全国高等学校体育連盟	滝本 寛
一般社団法人山口県サッカー協会	天久 弘	一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟	加藤 孝俊
一般社団法人香川県サッカー協会	山下 憲一	公益財団法人日本中学校体育連盟	福島 隆志
一般社団法人徳島県サッカー協会	逢坂 利夫	一般社団法人日本プロサッカー選手会	高野 純一
一般社団法人愛媛県サッカー協会	豊島 吉博		

※2016年7月1日現在

- 1921年 9月 大日本蹴球協会創立(9月10日)、初代会長に今村次吉が就任
1919年にイングランドサッカー協会(The FA)からFAシルバークップが寄贈されたことを機に大日本蹴球協会が創設される。
- 11月 ア式蹴球全国優勝競技会(現、天皇杯日本サッカー選手権大会)開催
- 1929年 5月 国際サッカー連盟(FIFA)に加盟
- 1935年 4月 第2代会長に深尾隆太郎
- 1936年 8月 日本代表、ベルリンオリンピックでベスト8
初めて出場したオリンピックで優勝候補のスウェーデンを3-2で破る大金星(「ベルリンの奇跡」)。川本泰三がオリンピックにおける日本人初ゴールを決める。
- 1947年 4月 第3代会長に高橋龍太郎
- 1950年 9月 FIFAに再加盟
- 1954年 10月 アジアサッカー連盟(AFC)に加盟
- 1955年 4月 第4代会長に野津謙
- 1958年 5月 市田左右一常務理事がFIFA理事に就任
- 1960年 8月 西ドイツサッカー協会からデットマール・クラマーを日本代表初の外国人コーチとして招へい
- 1964年 10月 東京オリンピックを開催。日本代表、ベスト8
- 1965年 6月 日本初の全国リーグ、日本サッカーリーグ(JSL)が開幕
- 1968年 10月 日本代表、メキシコオリンピックで銅メダル
日本代表は、南米やヨーロッパの強豪を打ち破る快進撃を見せ、地元メキシコとの3位決定戦を制して銅メダルを獲得。釜本邦茂が得点王に輝いたほか、この年に新設されたFIFAフェアプレー賞を受賞。翌年にはユネスコの1968年度フェアプレー賞を受賞。
- 1969年 4月 野津謙会長がFIFA理事に就任
- 1974年 8月 財団法人化。財団法人日本サッカー協会に名称変更
- 1976年 4月 第5代会長に平井富三郎
- 1978年 5月 ジャパンカップ(現、キリンカップサッカー)がスタート
- 1979年 8-9月 FIFAワールドユーストーナメント(現、FIFA U-20ワールドカップ)を開催
- 1981年 2月 第1回トヨタヨーロッパ/サウスアメリカカップを開催(〜2004年)

- 1986年 4月 プロ選手の登録「スペシャルライセンスプレーヤー制度」を導入
- 1987年 3月 高円宮憲仁親王殿下が名誉総裁にご就任
- 4月 第6代会長に藤田静夫
- 1989年 9月 日本女子サッカーリーグ(現、なでしこリーグ)がスタート
- 11月 2002FIFAワールドカップの開催地として正式に立候補を表明
- 1991年 11月 日本女子代表、第1回FIFA女子世界選手権(中国/現、FIFA女子ワールドカップ)に出場
- 11月 社団法人日本プロサッカーリーグ設立(10クラブが加盟)
- 1992年 4月 第7代会長に島田秀夫
- 10-11月 日本代表、第10回AFCアジアカップ(広島)で初優勝
- 1993年 5月 Jリーグ開幕(5月15日)
- 8月 FIFA U-17選手権(現、FIFA U-17ワールドカップ)を開催
- 1994年 5月 第8代会長に長沼健
- 1996年 5月 2002FIFAワールドカップ、日本と韓国の共同開催が決定
- 1997年 12月 財団法人2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会(JAWOC)設立
- 1998年 6-7月 日本代表、FIFAワールドカップ(フランス)に初出場
- 7月 第9代会長に岡野俊一郎
- 1999年 3月 Jリーグ、1・2部制(J1・J2)を導入
- 4月 U-20日本代表が第10回FIFAワールドユース(ナイジェリア/現、FIFA U-20ワールドカップ)で準優勝
- 2000年 10月 日本代表、AFCアジアカップ(レバノン)で2度目の優勝
- 2002年 5-6月 2002FIFAワールドカップを韓国と共同開催/日本代表、ベスト16。
日本は、グループステージを2勝1分けで突破。ラウンド16でトルコに惜敗するも堂々のベスト16入り。この大会は、「笑顔のワールドカップ」として歴史に刻まれた。また、同年、日本は韓国とともにFIFAフェアプレー賞を受賞。
- 7月 第10代会長に川淵三郎
- 8月 小倉純二副会長がFIFA理事に就任
- 10月 「キャプテンズ・ミッション」を策定
- 11月 JFA名誉総裁 高円宮憲仁親王殿下薨去

- 2003年 3月 高円宮妃久子殿下が名誉総裁にご就任
- 12月 JFAハウスに日本サッカーミュージアムをオープン
- 2004年 7-8月 日本代表、AFCアジアカップ(中国)で2大会連続優勝
- 2005年 1月 「JFA2005年宣言」(1月1日)
「DREAM〜夢があるから強くなる」をスローガンに、JFAの理念、ビジョン、達成目標を発表。
- 5月 日本サッカー殿堂を設立
- 12月 TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップを開催(〜2008年、2011〜12年)
- 2006年 4月 JFAアカデミー福島、開校
- 2007年 4月 「JFAこころのプロジェクト」をスタート
サッカー選手をはじめ、各競技のアスリートらが「夢先生(ユメセン)」として全国の小学校などで「夢の教室」を開催。
- 9月 日本フットサルリーグ(Fリーグ)開幕
- 2008年 7月 第11代会長に犬飼基昭
- 8月 なでしこジャパン、北京オリンピックで4位入賞
- 2009年 4月 JFAアカデミー熊本宇城、開校
- 8月 JFAメディカルセンターをJヴィレッジにオープン
- 9月 アジアサッカーの発展を目指す「JFAドリームアジアプロジェクト」をスタート
- 2010年 6-7月 SAMURAI BLUE、FIFAワールドカップ(南アフリカ)でベスト16
- 7月 第12代会長に小倉純二
- 9月 U-17日本女子代表、FIFA U-17女子ワールドカップ(トリニダード・トバゴ)で準優勝
- 2011年 1月 SAMURAI BLUE、AFCアジアカップ(カタール)で4度目の優勝
- 6-7月 なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)で初優勝
澤穂希が大会MVPと得点王に輝き、チームはFIFAフェアプレー賞を受賞。
- 8月 なでしこジャパンが国民栄誉賞を受賞

- 2012年 1月 FIFAパロンドール2011で澤穂希がFIFA女子年間最優秀選手賞、佐々木則夫監督が女子年間最優秀監督賞を、日本サッカー協会がFIFAフェアプレー賞を受賞
- 4月 公益財団法人日本サッカー協会に組織変更
- 4月 JFAアカデミー堺、開校
- 6月 第13代会長に大仁邦彌
- 7-8月 U-23日本代表、ロンドンオリンピックで4位
なでしこジャパン、ロンドンオリンピックで銀メダル
- 8-9月 FIFA U-20女子ワールドカップを開催/U-20日本女子代表が3位
- 2014年 3-4月 U-17日本女子代表、FIFA U-17女子ワールドカップ(コスタリカ)で初優勝
- 5月 「JFAグラスルーツ宣言」を表明
なでしこジャパン、AFC女子アジアカップ(ベトナム)で初優勝
宮間あやがMVPに輝き、チームはフェアプレー賞を受賞。
- 2015年 3月 「JFAのパリユエ」を策定
- 4月 一般財団法人日本ビーチサッカー連盟(JBSF)設立
JFAアカデミー今治、開校
田嶋幸三副会長がFIFA理事に就任
- 6月 なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ(カナダ)で準優勝
- 12月 FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2015を開催
- 2016年 1月 U-23日本代表、AFC U-23選手権(カタール)で初優勝
- 4月 第14代会長に田嶋幸三
- 4月 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟、設立

一敬称略一



2002FIFAワールドカップ日本/韓国

関連施設

日本サッカーミュージアム

日本サッカーミュージアムには、日本サッカー協会の95年の歴史の中で手にした輝かしい功績、そして今日の隆盛を築いた先駆者の軌跡を辿る貴重な資料が数多く所蔵・展示されています。150インチのスクリーンを配した3Dシアターでは、FIFAワールドカップ、FIFA女子ワールドカップ等の感動的なシーンや進化する日本サッカーの迫力ある映像を楽しむことができます。

いにしへの昔から受け継がれてきた日本サッカーの精神と伝統。日本サッカーミュージアムはその有形無形の財産を後世に語り継いでいきます。



日本サッカー殿堂

指導者、選手、審判、協会関係者、メディア関係者など日本サッカー界の発展に貢献した先駆者の軌跡をたどる日本サッカー殿堂。日本サッカーミュージアム内に設置されています。2016年6月現在、72人が掲額されています。



ナショナルトレーニングセンター

現在、Jヴィレッジ(福島)*、J-STEP(静岡)、J-GREEN堺(大阪)に3つのサッカーナショナルトレーニングセンターがあります。さまざまな用途に応えるための環境が整っており、日本代表チームはもちろんスポーツ愛好家も利用できる場所になっています。

*Jヴィレッジは東日本大震災後に原発事故対応拠点となり、現在は一時的に活動を休止しています。JFAは、復興支援委員会の活動の一環としてJヴィレッジの復旧を推進を進めています。



JFAメディカルセンター

JFAメディカルセンターは2009年、「FIFAゴールプログラム」の助成を受けた初の医療施設としてJヴィレッジ内に開設されました。東日本大震災の影響で現在は一時的に休止していますが、復旧後は、これまで通り、選手のケアや地元住民の診察のほか、スポーツ医学や障害予防などに関する研究を継続していきます。

フットボールセンター

JFAは、地域スポーツ活動の拠点となる「都道府県フットボールセンター」を広げるため、都道府県サッカー協会や地方自治体などが行うグラウンド・夜間照明・クラブハウスなどの整備事業に対し、その費用の一部を補助する助成事業を実施しています。

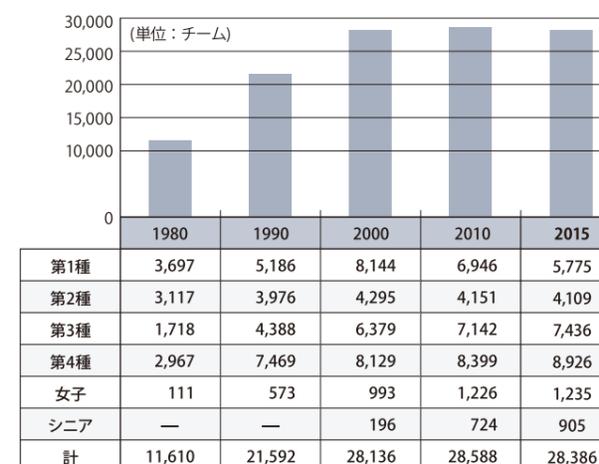
JFAは、100周年を迎える2021年までにJFAが運営する都市型の「JFAナショナルフットボールセンター(仮称)」を創設すべく、千葉県幕張海浜公園(千葉県千葉市)を候補地として準備を進めています。

■ カテゴリー別 JFA 登録数

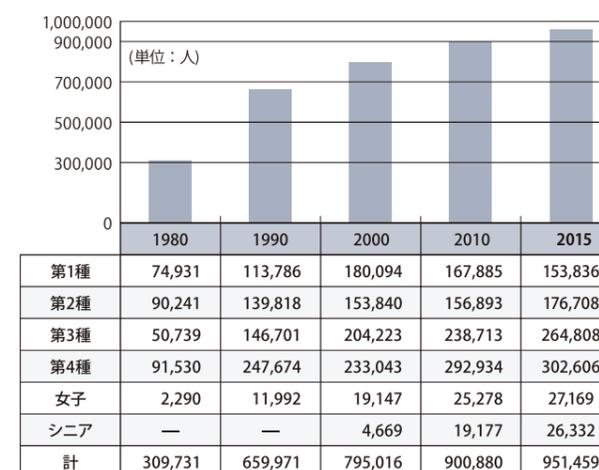
チーム	28,386チーム	選手	951,459人	監督	11,792人	フットサルチーム	2,739チーム
フットサル個人	44,211人	フットサル監督	2,355人	サッカー審判員	254,741人	フットサル審判員	24,580人
サッカー審判インストラクター	2,411人	フットサル審判インストラクター	508人	指導者(登録)	78,570人	登録数合計 (チーム登録数は除く)	
フットサル指導者(登録)	1,130人	キッズリーダー(任意登録)	971人	協会役員	1,715人	1,374,443人	

JFAはサッカーに関わるすべての人を「サッカーファミリー」の一員と捉えています。JFA主催大会の観客、関連事業の参加者、チケット会員を含めると、日本のサッカーファミリーの人口は**5,262,220人**に及びます(2015年度)。

■ 加盟サッカーチーム数の推移



■ サッカー選手登録数の推移



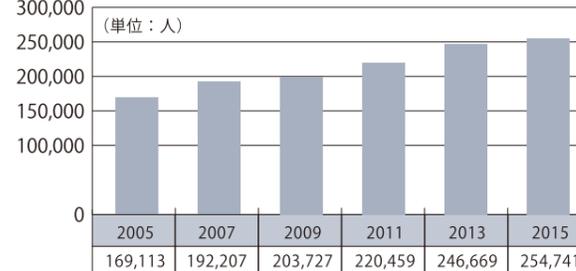
第1種:年齢制限のないチーム
第2種:18歳未満の選手で構成されるチーム
第3種:15歳未満の選手で構成されるチーム
第4種:12歳未満の選手で構成されるチーム
女子:女性で構成されるチーム(12歳未満の選手は第4種チーム登録)
シニア:40歳以上で構成されるチーム

*第2種、第3種、第4種の場合、それぞれ高校在学中、中学校在学中、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。

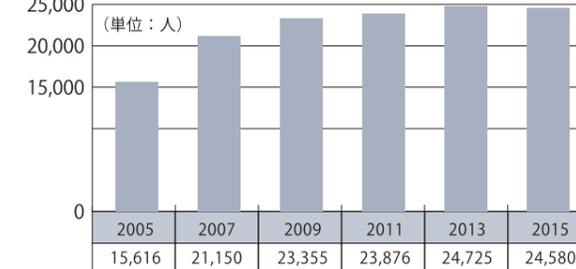
■ 指導者/審判員登録数の推移



サッカー審判員



フットサル審判員



*フットサルチーム・選手(個人)およびフットサル指導者の登録は2014年度よりスタート

SAMURAI BLUE (日本代表)

■ 歴代監督一覧 (1992年のAFCアジアカップ以降)

名前	期間
ハンス・オフト (オランダ)	1992年5月 ~ 1993年10月
パウロ・ロベルト・ファルカン (ブラジル)	1994年5月 ~ 1994年10月
加茂 周	1995年1月 ~ 1997年10月
岡田 武史	1997年10月 ~ 1998年6月
フィリップ・トルシエ (フランス)	1998年10月 ~ 2002年6月
ジーコ (ブラジル)	2002年7月 ~ 2006年6月
イビチャ・オシム (オーストリア/ボスニア・ヘルツェゴビナ)	2006年7月 ~ 2007年12月
岡田 武史	2007年12月 ~ 2010年8月
アルベルト・ザッケローニ (イタリア)	2010年9月 ~ 2014年7月
ハビエル・アギーレ (メキシコ)	2014年8月 ~ 2015年2月
ヴァイッド・ハリルホジッチ (フランス)	2015年3月 ~



■ 主要国際大会 戦績

開催年	大会名	監督	成績
1968年	メキシコオリンピック	長沼 健	3位(銅メダル)
1992年	AFCアジアカップ(広島)	ハンス・オフト	優勝
1998年	FIFAワールドカップ(フランス)	岡田 武史	グループリーグ敗退
2000年	AFCアジアカップ(レバノン)	フィリップ・トルシエ	優勝
2001年	FIFAコンフェデレーションズカップ(日本・韓国)	フィリップ・トルシエ	準優勝
2002年	FIFAワールドカップ(日本・韓国)	フィリップ・トルシエ	ベスト16
2003年	FIFAコンフェデレーションズカップ(フランス)	ジーコ	グループリーグ敗退
2004年	AFCアジアカップ(中国)	ジーコ	優勝
2005年	FIFAコンフェデレーションズカップ(ドイツ)	ジーコ	グループリーグ敗退
2006年	FIFAワールドカップ(ドイツ)	ジーコ	グループリーグ敗退
2007年	AFCアジアカップ(タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア)	イビチャ・オシム	4位
2010年	FIFAワールドカップ(南アフリカ)	岡田 武史	ベスト16
2011年	AFCアジアカップ(カタール)	アルベルト・ザッケローニ	優勝
2013年	FIFAコンフェデレーションズカップ(ブラジル)	アルベルト・ザッケローニ	グループリーグ敗退
2014年	FIFAワールドカップ(ブラジル)	アルベルト・ザッケローニ	グループリーグ敗退
2015年	AFCアジアカップ(オーストラリア)	ハビエル・アギーレ	ベスト8

なでしこジャパン (日本女子代表)

■ 歴代監督一覧

名前	期間
市原 聖曠	1981年6月 ~ 1981年9月
折井 孝男	1983年11月 ~ 1984年10月
鈴木 良平	1986年1月 ~ 1989年1月
鈴木 保	1989年12月 ~ 1996年7月
宮内 聡	1997年6月 ~ 1999年6月
鈴木 保	1999年11月 ~ 1999年11月
池田 司信	2000年5月 ~ 2002年4月
上田 栄治	2002年8月 ~ 2004年8月
大橋 浩司	2004年12月 ~ 2007年9月
佐々木 則夫	2008年2月 ~ 2016年3月
高倉 麻子	2016年4月 ~



■ 主要国際大会 戦績

開催年	大会名	監督	成績
1991年	FIFA女子ワールドカップ(中国)	鈴木 保	グループリーグ敗退
1995年	FIFA女子ワールドカップ(スウェーデン)	鈴木 保	ベスト8
1996年	アトランタオリンピック	鈴木 保	グループリーグ敗退
1999年	FIFA女子ワールドカップ(アメリカ)	宮内 聡	グループリーグ敗退
2003年	FIFA女子ワールドカップ(アメリカ)	上田 栄治	グループリーグ敗退
2004年	アテネオリンピック	上田 栄治	ベスト8
2007年	FIFA女子ワールドカップ(中国)	大橋 浩司	グループリーグ敗退
2008年	北京オリンピック	佐々木 則夫	ベスト4
2011年	FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)	佐々木 則夫	優勝
2012年	ロンドンオリンピック	佐々木 則夫	準優勝(銀メダル)
2014年	AFC女子アジアカップ(ベトナム)	佐々木 則夫	優勝
2015年	FIFA女子ワールドカップ(カナダ)	佐々木 則夫	準優勝

各カテゴリー代表

■ U-23日本代表
オリンピック競技大会 戦績(1996年以降)

開催年	大会名	監督	成績
1996年	アトランタ大会	西野 朗	グループリーグ敗退
2000年	シドニー大会	フィリップ・トルシエ	ベスト8
2004年	アテネ大会	山本 昌邦	グループリーグ敗退
2008年	北京大会	反町 康治	グループリーグ敗退
2012年	ロンドン大会	関塚 隆	ベスト4

※1996年のアトランタ大会からは、各チーム3人までの24歳以上の選手を認める「オーバーエイジ枠」を採用

■ U-20日本代表
FIFA U-20ワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
1979年	日本	松本 育夫	グループリーグ敗退
1995年	カタール	田中 孝司	ベスト8
1997年	マレーシア	山本 昌邦	ベスト8
1999年	ナイジェリア	フィリップ・トルシエ	準優勝
2001年	アルゼンチン	西村 昭宏	グループリーグ敗退
2003年	アラブ首長国連邦	大熊 清	ベスト8
2005年	オランダ	大熊 清	ベスト16
2007年	カナダ	吉田 靖	ベスト16

※第3回大会(1981年)までは19歳以下の選手が出場

■ U-17日本代表
FIFA U-17ワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
1993年	日本	小嶺 忠敏	ベスト8
1995年	エクアドル	松田 保	グループリーグ敗退
2001年	トリニダード・トバゴ	田嶋 幸三	グループリーグ敗退
2007年	韓国	城福 浩	グループリーグ敗退
2009年	ナイジェリア	池内 豊	グループリーグ敗退
2011年	メキシコ	吉武 博文	ベスト8
2013年	アラブ首長国連邦	吉武 博文	ベスト16

■ U-20日本女子代表
FIFA U-20女子ワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
2002年	カナダ	池田 司信	ベスト8
2008年	チリ	佐々木 則夫	ベスト8
2010年	ドイツ	佐々木 則夫	グループリーグ敗退
2012年	日本	吉田 弘	3位

※2002年のカナダ大会、2004年のタイ大会まではU-19で開催

■ U-17日本女子代表
FIFA U-17女子ワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
2008年	ニュージーランド	吉田 弘	ベスト8
2010年	トリニダード・トバゴ	吉田 弘	準優勝
2012年	アゼルバイジャン	吉田 弘	ベスト8
2014年	コスタリカ	高倉 麻子	優勝

■ フットサル日本代表
FIFA フットサルワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
1989年	オランダ	宮本 征勝	グループリーグ敗退
2004年	チャイニーズ・タイペイ	セルジオ・サッポ	グループリーグ敗退
2008年	ブラジル	セルジオ・サッポ	グループリーグ敗退
2012年	タイ	ミゲル・ロドリゴ	ベスト16

■ ビーチサッカー日本代表
FIFA ビーチサッカーワールドカップ 戦績

開催年	開催国	監督	成績
2005年	ブラジル	ラモス瑠偉	ベスト4
2006年	ブラジル	鳥飼 浩之	ベスト8
2007年	ブラジル	ネネン	グループリーグ敗退
2008年	フランス	河原塚 毅	グループリーグ敗退
2009年	アラブ首長国連邦	ラモス瑠偉	ベスト8
2011年	イタリア	ラモス瑠偉	グループリーグ敗退
2013年	タヒチ	ラモス瑠偉	ベスト8
2015年	ポルトガル	マルセロ・メンデス	ベスト8

■ フェアプレー賞 受賞一覧 (世界大会・イベントのみ)

開催年	大会・イベント名	カテゴリー
1968年	メキシコオリンピック	日本代表
1995年	FIFAワールドユース選手権(カタール)(現:FIFA U-20ワールドカップ)	U-20日本代表
2001年	FIFAコンフェデレーションズカップ(日本・韓国)	日本代表
2002年	FIFA U-19女子世界選手権(カナダ)	U-19日本女子代表
2002年	FIFAフェアプレーアワード	日本サッカー協会
2003年	FIFAコンフェデレーションズカップ(フランス)	日本代表
2004年	アテネオリンピック	なでしこジャパン
2005年	FIFAビーチサッカーワールドカップ(リオデジャネイロ)	ビーチサッカー日本代表
2007年	FIFA U-20ワールドカップ(カナダ)	U-20日本代表
2007年	FIFAクラブワールドカップ	浦和レッズ
2009年	FIFAビーチサッカーワールドカップ(ドバイ)	ビーチサッカー日本代表
2011年	FIFA U-17ワールドカップ(メキシコ)	U-17日本代表
2011年	FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)	なでしこジャパン
2011年	FIFAフェアプレーアワード	日本サッカー協会
2012年	ロンドンオリンピック	U-23日本代表
2012年	FIFA U-20女子ワールドカップ(日本)	U-20日本女子代表
2012年	FIFA U-17女子ワールドカップ(アゼルバイジャン)	U-20日本女子代表
2014年	FIFA U-17女子ワールドカップ(コスタリカ)	U-17日本女子代表



FIFA U-17女子ワールドカップ コスタリカ 2014

2016年度 Jリーグ/JFL/なでしこリーグ/Fリーグ クラブ・活動区域一覧

Jリーグ ディビジョン1

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like ベガルタ仙台, 鹿島アントラーズ, 浦和レッズ, etc.

日本フットボールリーグ (JFL)

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like ヴァンラーレ八戸, ラインメール青森, ソニー仙台FC, etc.

Fリーグ

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like エスポラーダ北海道, ヴォスコオーレ仙台, バルドラール浦安, etc.

Jリーグ ディビジョン2

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like 北海道コンサドーレ札幌, モンテディオ山形, 水戸ホーリーホック, etc.

なでしこリーグ1部

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like ベガルタ仙台レディース, 浦和レッドダイヤモンズレディース, ジェフユナイテッド千葉, etc.

なでしこリーグ2部

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like ちふれASエルフェン埼玉, スフィーダ世田谷FC, 日体大 FIELDS 横浜, etc.

Jリーグ ディビジョン3

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like グルージャ盛岡, ブラウブリッツ秋田, 福島ユナイテッドFC, etc.

チャレンジリーグ

Table with 2 columns: Club Name, Prefecture. Includes teams like ノルディーア北海道, 常盤木学園高等学校, つくばFCLレディース, etc.

*東日本大震災と原発事故の影響で、福島より一時移転中



明治安田生命Jリーグ ディビジョン1



明治安田生命Jリーグ ディビジョン2



プレナスなでしこリーグ 1部



Super Sports XEBIO Fリーグ

関連団体組織連絡先

Table with 4 columns: 団体名, 住所, TEL, FAX. Entry for 公益財団法人 日本サッカー協会.

関連団体

Table with 4 columns: 団体名, 住所, TEL, FAX. Lists various football associations and clubs across Japan.

地域・都道府県サッカー協会

Table with 4 columns: 団体名, 住所, TEL, FAX. Lists regional and prefectural football associations.